まなびや

学舎の履歴書

～島根大学（松江キャンパス）と周辺の歴史～

履歴書

ふりがな
氏名　しまねだいがく　平成 19年 3月 11日

島根大学

明治8年 3月 11日生（満132歳）　性別 男 女

ふりがな　しまねけんまつえしにしかわつちょう
現住所　〒690－8504
島根県松江市西川津町1060
（現住所以外に連絡を必要とする場合のみ記入）

TEL. 0852－32－
携帯
FAX.
TEL.
方 FAX.

学歴・職歴（各別にまとめて書く）

年	月	
明治8	3	小学教員伝習所
明治9	10	松江師範学校
明治11	9	松江女子師範学校
明治17	7	島根県師範学校
明治19	8	島根県尋常師範学校
明治31	4	島根県師範学校
明治36	4	島根県女子師範学校
大正9	11	松江高等学校
昭和18	4	島根師範学校
昭和19	4	島根青年師範学校
昭和22	9	島根県立農林専門学校
昭和24	5	国立島根大学
昭和26	4	島根県立島根農科大学
昭和50	10	国立島根医科大学
平成15	10	国立島根大学
平成16	4	国立大学法人　島根大学

2007

島根大学ミュージアム

CONTENTS

目次

Ⅰ　島根大学(松江キャンパス)周辺の景観

1　水辺にあった島根大学（松江キャンパス）…… 2
2　山陰にも飛んできた鬼界アカホヤ火山灰 …… 3

Ⅱ　水辺に暮らした島大縄文人の営み

1　縄文時代の木製品 …… 3
2　島大縄文人の道具箱 …… 4
3　いろいろな縄文土器 …… 4

Ⅲ　稲作文化の始まり

1　弥生文化の到来 …… 5
2　島根大学(松江キャンパス)周辺の弥生遺跡 …… 5

Ⅳ　古墳時代の松江平野

1　島根大学(松江キャンパス)周辺は古墳のメッカ …… 6
2　正門の下に川があった …… 7
3　いろいろな木製品 …… 7

Ⅴ　『出雲国風土記』の時代

1　島根郡山口郷 …… 8
2　墨書土器を読む …… 8

Ⅵ　水運・陸運の要衝地

1　運ばれたアジアの陶磁器 …… 8
2　松江美保関往還 …… 9

Ⅶ　近代高等教育の拠点へ

1　旧制松江高等学校の誕生 …… 10
2　島根大学の発足と発展 …… 11

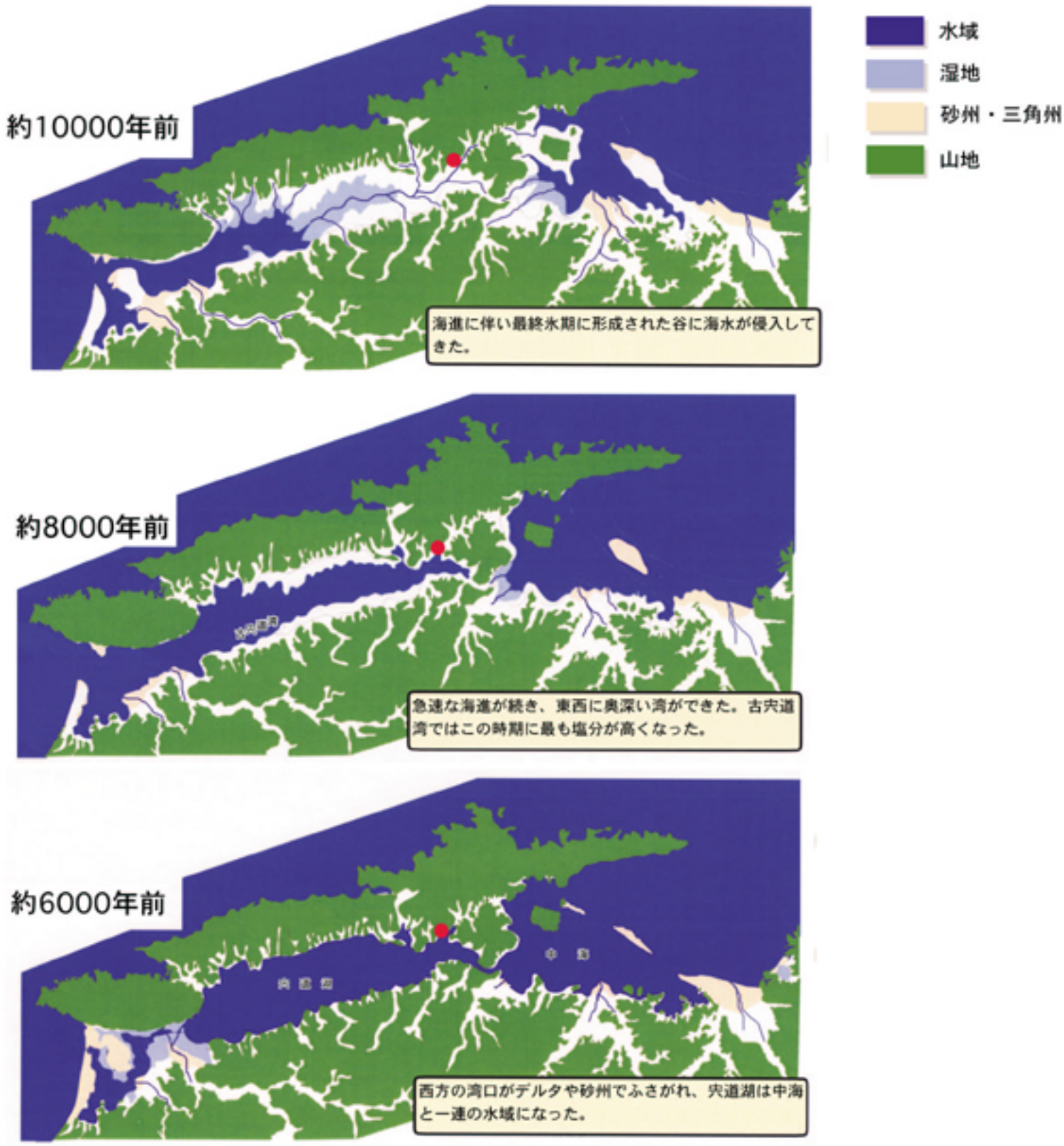
略年表

Ⅰ 島根大学（松江キャンパス）周辺の景観

1　水辺にあった島根大学（松江キャンパス）

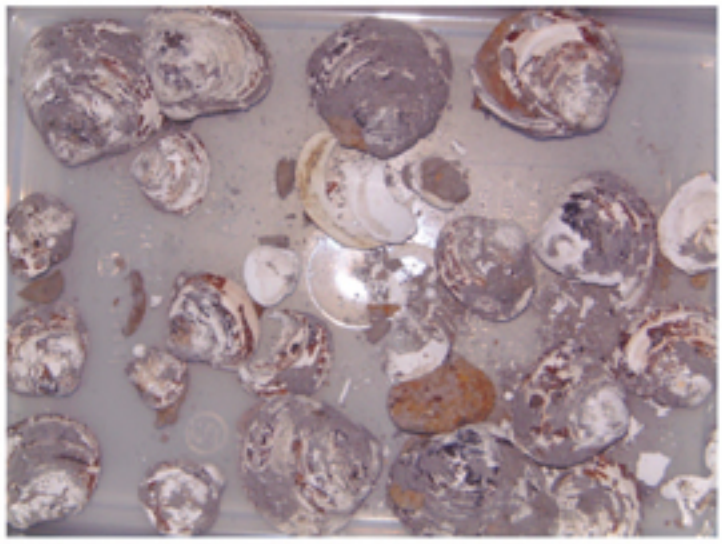
今から、約12000年前、寒い氷河期が終わり、地球全体が温暖化した結果、氷河がとけ、海面が上昇していった。

今から、約8000～6000年前になると、さらに内陸側にまで海が進入していった。現在の宍道湖・中海は、日本海と通じており、島根半島は、なかば本土と切り離れた島のようになっていた。この頃、現在の島根大学（松江キャンパス）は、まさに水辺に位置していたのである。



縄文海進期の地形変遷（赤丸が島根大学松江キャンパス、高安2001から作成）

縄文前期の泥炭層（現島根大学武道場）
水辺に生えた植物が腐植し、黒い泥が堆積していった。



島根大学正門付近で見つかった約5000年以上前のシジミ

2　山陰にも飛んできた鬼界アカホヤ火山灰

今から約7300年前頃、鹿児島の南にある鬼界カルデラとよばれる火山（現在の薩摩硫黄島（鬼界ヶ島）付近）が大噴火をおこした。この噴火による火砕流は九州南部をのみこみ、この地の縄文文化を壊滅させたと考えられている。

この鬼界アカホヤ火山灰が、遠く離れた島根大学（松江キャンパス）の中でも発見されている。鬼界アカホヤ火山灰は、約２～３㎝の厚さで、水辺にたまった状態で見つかった。当時の人々は、どのような思いで、降り積もる白い灰を見つめていたのだろうか？なお、松江キャンパスからは、約5000年以上前に噴火した三瓶山の火山灰も見つかっている。

白い帯状のものが鬼界アカホヤ火山灰（現島根大学第２体育館）

Ⅱ　水辺に暮らした島大縄文人の営み

1　縄文時代の木製品

縄文前期の丸木舟と推定される板材
（現島根大学第２体育館出土）

縄文前期の櫂とヤス柄（現島根大学武道場出土）
当時の入り江だった場所から出土した。縄文人が置き忘れ、そのまま時間が止まったかのようである。

島根大学（松江キャンパス）では、縄文前期（約7000年前～）の泥炭層から、長さ約６ｍのスギ板材（丸木舟推定板材）、カイ２本とヤス柄などが出土している。

木製品が、何千年も朽ち果てずに残るのは大変めずらしく、当時の木工文化や漁撈生活を知るうえでも、非常に貴重な資料である。島根大学（松江キャンパス）にあった入り江のおだやかな波音が聞こえてくるようだ。

2　島大縄文人の道具箱

縄文人は、おもに石の道具を使って、狩りや漁撈、木器加工などの活動をしていた。

島根大学（松江キャンパス）から出土した石器には、石鏃（せきぞく：矢じり）、石錘（せきすい：網のオモリ）、石匙（いしさじ：携帯用ナイフ）、スクレイパー（ナイフ）、すり石、石皿などがある。石器の材料は、隠岐島産の黒曜石（黒いガラス質の石）など、わざわざ遠くから運んできたものもみられる。

石鏃（現島根大学学生会館などで出土）

石錘（現島根大学生物資源科学部１号館などで出土）

3　いろいろな縄文土器

１万年以上も続いた縄文時代には、時期や地域によって、様々な形・文様をもった土器が作られた。

島根大学（松江キャンパス）からも、山陰沿岸部では古い時期の土器や九州・朝鮮半島で出土するものとよく似た土器が見つかっている。

縄文早期（現島根大学第２体育館出土）

縄文前期（現島根大学第２体育館出土）

Ⅲ 稲作文化の始まり

1　弥生文化の到来

今から、およそ2400年以上前、北部九州から山陰に弥生文化が伝わった。弥生時代は、水田による本格的な稲作農耕をおこなった時代である。

島根大学（松江キャンパス）の東隣にある西川津遺跡でも、この頃の遺物が見つかっている。

弥生前期の遺跡分布
赤丸が遺跡。地図は約3000年前の推定地形（高安2001より）

朝酌川流域にある西川津遺跡

2　島根大学（松江キャンパス）周辺の弥生遺跡

島根大学（松江キャンパス）のすぐ近くにある朝酌川流域では、西川津遺跡、タテチョウ遺跡など全国的に有名な遺跡が発掘調査されている。

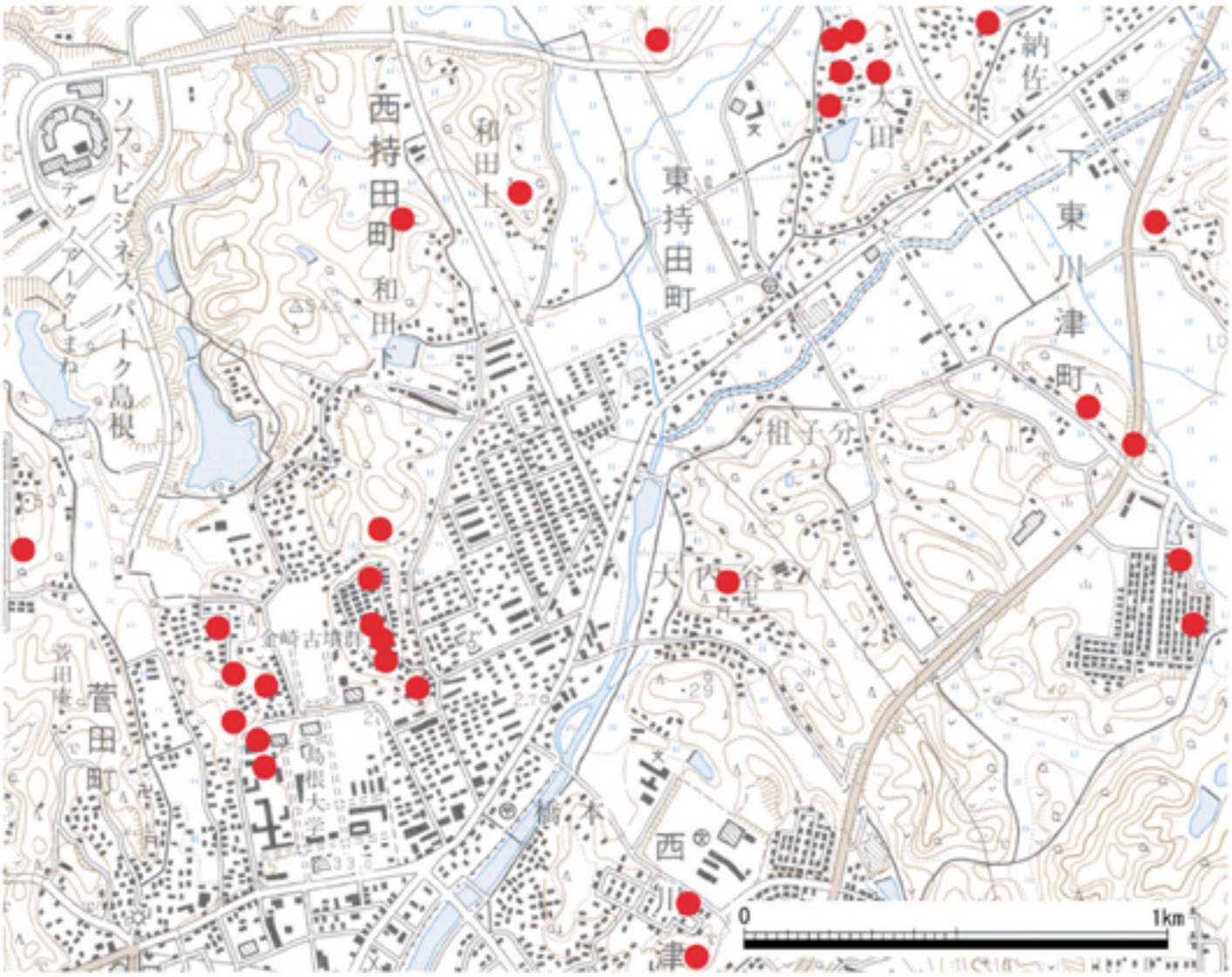
これらの遺跡からは、ぼう大な量の弥生土器、石器、木製品などが出土している。島根県教育委員会による1997年の調査では、西川津遺跡から貴重な銅鐸も出土した。銅鐸は祭りの道具と考えられており、西川津遺跡付近がこの地域における祭祀の中心になるようなムラであったことが分かる。

西川津遺跡出土の弥生土器
（写真提供：島根県教育委員会）

西川津遺跡から発見された銅鐸の破片
（写真提供：島根県教育委員会）

Ⅳ 古墳時代の松江平野

1　島根大学（松江キャンパス）周辺は古墳のメッカ



松江平野の主要古墳分布図（国土地理院平成15年発行地図をもとに作成）

島根大学（松江キャンパス）の周りには，５世紀から６世紀にかけての著名な古墳がたくさん残されている。

キャンパス内北西部にある高台（現教養棟２号館付近）には，かつて薬師山古墳や菅田ヶ丘古墳があった。学生食堂の横には，関係者の尽力によって移築復元された菅田ヶ丘古墳の埋葬施設の様子を見学することができる。

また，グランドの東側丘陵上にある，全国的にも著名な金崎古墳群（国史跡）は，５世紀頃における大学一帯の社会を知るうえで重要な位置を占めている。

移築復元された菅田ヶ丘古墳（島根大学学生食堂横）

西方約50mの丘の上にあった。長さ約30m・高さ約3.5mの前方後方墳だったと考えられている。

薬師山古墳出土の須恵器（写真提供：島根大法文学部考古学研究室）

須恵器は，朝鮮半島から伝わった技術によって窯で焼かれた土器である。

国史跡・金崎古墳群（島根大学グランド東側）

かつては10基以上の古墳があったが、現在は前方後方墳や方墳など５基のみ残され、公園となっている。

金崎１号墳から出土した玉類
（写真提供：島根大学法文学部考古学研究室）

碧玉や赤メノウ製の勾玉・管玉、ガラス製の小玉など。

2　正門の下に川があった

弥生～古墳時代の小さな川跡（現島根大学正門付近）

島根大学（松江キャンパス）正門下の発掘調査では、弥生～古墳時代の小さな川跡が見つかっている（写真の紺色の部分）。川跡の中からは、捨てられたたくさんの土器や木器が出土した。

この川は、徐々に埋まっていき、古墳時代終わり頃（およそ６世紀後半）には、完全に姿を消す。

キャンパス南部では、こうした名もない小さな川跡が、他にもいくつか見つかっている。

3　いろいろな木製品

弥生後期～奈良時代の部材を転用した杭・板材など
（現島根大学総合理工学部１号館付近出土）

森に恵まれた日本列島の人々にとって、木はなくてはならない道具である。

加工の仕方で角材、板材、杭などに変形でき、孔を開けたりして、身の回りの色々なところで使用した。縄文時代には石器を用いて加工されたが、弥生時代の終わり～古墳時代になると、鉄器が用いられるようになった。

島根大学（松江キャンパス）からも、写真のような様々な木製品が見つかっている。

Ⅴ 『出雲国風土記』の時代

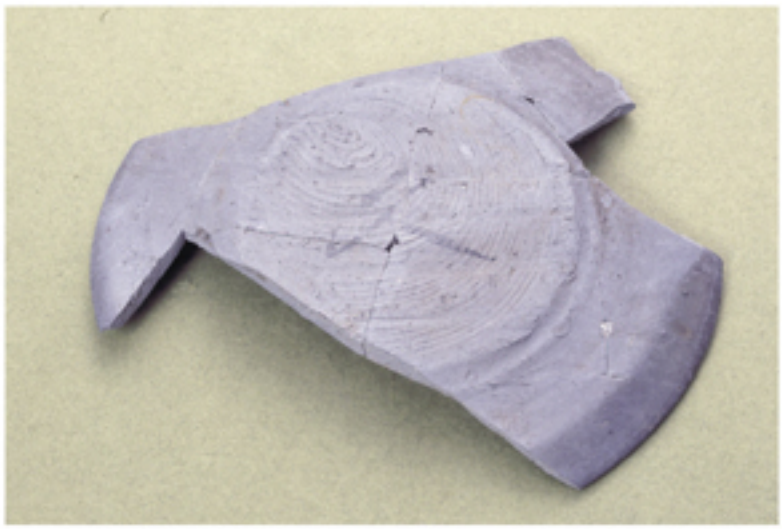
1　島根郡山口郷

奈良時代の須恵器（現島根大学正門付近出土）

西暦733年（奈良時代）、有名な『出雲国風土記』が完成した。『出雲国風土記』は、全国で編纂された風土記のうち、すべてが完全に残っているものとして、大変貴重な資料である。

これによれば、奈良時代の島根大学（松江キャンパス）一帯は、「島根郡山口郷」と記述されている。キャンパス内からも、風土記の時代に人々が使っていた須恵器がたくさん出土している。

2　墨書土器を読む



平安時代の墨書土器（現島根大学正門付近出土）

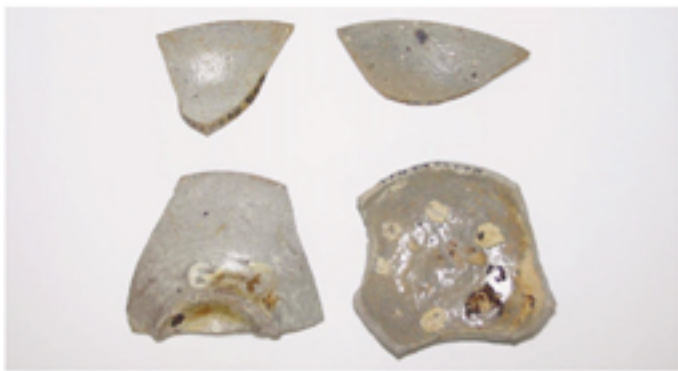
写真は、島根大学（松江キャンパス）から出土した須恵器の皿（平安時代）の底を上から見たものである。よく見ると、中央に達筆な「久」の文字が書かれている。

こうした墨の文字が書かれた土器のことを墨書土器と呼んでいる。持ち主の名前や施設・官職に関わる文字などがあるが、意味不明のものも多くある。「久」とは、一体、何を意味しているのだろうか？

島根大学（松江キャンパス）付近では、タテチョウ遺跡からも「驛」と書かれた、奈良時代の墨書土器が出土している。

Ⅵ 水運・陸運の要衝地

1　運ばれたアジアの陶磁器



16世紀の朝鮮陶磁器（現島根大学総合理工学部３号館出土）

16世紀の中国藍彩陶器（現島根大学第２体育館出土）

島根大学（松江キャンパス）からは、中国や朝鮮からもたらされた色々な陶磁器が出土している。 キャンパス一帯は、中世は「長田郷」、近世は「川津」と呼ばれていた。津とは港を意味しており、近くの朝酌川河口部に船着場があったと考えられている。

おそらく、これらの陶磁器はこうした港を介して運ばれてきたのだろう。

2　松江美保関往還

島根大学（松江キャンパス）周辺の「松江美保関往還」（国土地理院平成15年発行地図をもとに作成）

松江城から島根半島東の美保関までは、江戸時代の幹線道があり、「松江美保関往還」と呼ばれている。

松江城を出た往還は、武家屋敷が多かった北殿町、北堀町を通り、商工業で栄えた石橋町に至る。

さらに進むと、赤崎観音付近の切り通しを抜け、菅田町にはいる。菅田町には、1790（寛政２）年、松平治郷（はるさと）が作らせた茶室・菅田庵をはじめ、貴船神社、極楽寺などがある。

さらに、小山を越えると西川津町にはいり、島根大学（松江キャンパス）のグランドを横切って、金崎古墳がある丘陵の下へと通じる。ここから先は、現在の国道431号線と一部重複しながら、本庄の町に通じ、さらに中海北岸、境水道北岸を通って港町・美保関に至る。

Ⅶ 近代高等教育の拠点へ

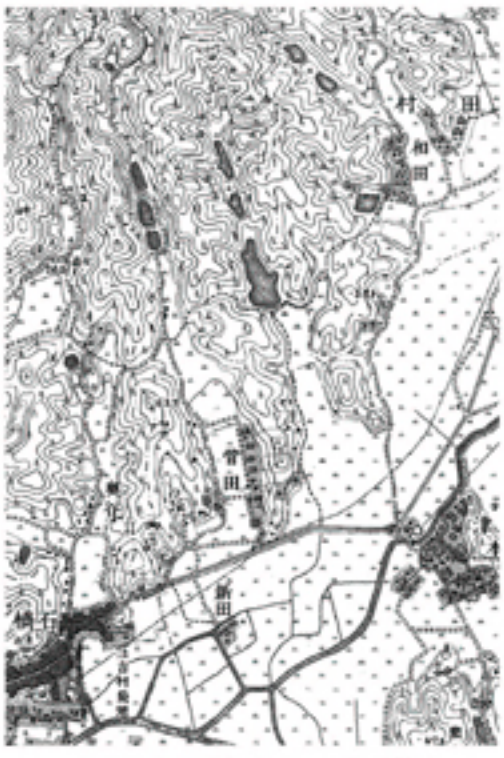
1　旧制松江高等学校の誕生

1920（大正９）年、島根大学の前身となる旧制松江高等学校が設立される。松江高等学校は、全国で17番目にできた旧制高等学校である。

旧制高等学校とは、1950（昭和25）年まであった高等教育機関のひとつで、最終的に全国に39校あった。最も古く創設された旧制一高から旧制八高までは、「ナンバースクール」と呼ばれ、それ以外は、「ネームスクール」と呼ばれている。

キャンパスの新設工事は、1920（大正９）年５月に着工し、翌年３月までにグランドを除く整地が完了した。さらに、1921（大正10）年12月20日に木造２階建本館が竣工し、1922（大正11）年１月から新校舎での授業が始まった。

当時の松江高等学校は、「談論風発を日々の生活の旨とした自由な校風（故藤田　田氏・談）」だったといわれている。この学び舎から、日本の近代化をになう多くの人材が巣立っていったのである。



大正４年の松江キャンパス周辺

まだ、丘陵と水田しかない。朝酌川は、幅が狭く、蛇行している。

昭和９年の松江キャンパス周辺

「菅田」丘陵先端部の東側に松江高校がつくられる。

平成13年の松江キャンパス周辺

周辺はすっかり市街地化し、往時の面影は薄れている。朝酌川は、拡幅されている。

陸地測量部大正７年発行（大正４年測量）、昭和11年発行（昭和９年測量）、国土地理院平成15年発行地図を一部改変

新校舎前にて（大正10年）

校門と本館

化学の講義風景（昭和初年）

大橋川でのボートレース（昭和17年）

2　島根大学の発足と発展

1949（昭和24）年、旧制松江高等学校・島根師範学校・島根青年師範学校を母体に、文理学部・教育学部からなる新制島根大学が発足する。1965（昭和40）年には、県立島根農科大学が農学部として加わった。

2003（平成15）年10月には国立島根医科大学と統合、2004（平成16）年４月から国立大学法人島根大学となった。現在、島根大学は、総合理工学部・生物資源科学部・法文学部・教育学部・医学部や大学院などからなる総合大学として、21世紀の日本や世界の発展のために、躍進を続けている。

現在の島根大学松江キャンパス（正門前から）

旧制松江高校のキャンパスが引き継がれ、東側や北側に拡張されて現在に至っている。

周辺は、学生街としてにぎわいをみせている。

島根大学正門

松江市忌部産の花崗岩（白御影石）製。1924（大正13）年、旧制松江高等学校の正門として制作・使用された後、島根大学の正門として受け継がれた。セセッション風の幾何学模様をもつ。

2006（平成18）年12月、国の登録有形文化財に登録。

略年表

	全国の出来事	島根大学（松江キャンパス）周辺や松江の出来事
旧石器	旧石器を使う 寒冷な気候	隠岐島産黒曜石や松江市玉湯町産メノウが石器に使われはじめる
縄文	狩りや漁をしてくらす 縄文土器を使う 温暖化で海面が上昇（縄文海進）	今の宍道湖のまわりで人々がくらす 南九州の火山が大噴火し、火山灰が島根にも降りつもる（約7300年以上前） 三瓶山が噴火し、火山灰が松江にも降る（約5000年以上前）
弥生	水田による米づくりが大陸から伝わる 小さなクニがあちらこちらにできる 奴の国王が後漢に使者をおくる（57） 邪馬台国の卑弥呼が魏に使者をおくる（239）	朝酌川流域の西川津遺跡で銅鐸が使われる 鉄の道具が使われるようになる 四隅突出型墳丘墓がつくられる
古墳	古墳が各地につくられ始める（3世紀後半頃～） 漢字・仏教が大陸から伝わる 聖徳太子が17条の憲法を定める（604） 法隆寺を建てる（607）	松江の各地に古墳がつくられる 須恵器がつくられる（5世紀） 鉄が生産される（6世紀） 横穴墓がつくられる（6世紀後半～7世紀）
奈良	奈良の「平城京」に都を移す（710） 古事記、日本書紀ができる 東大寺の大仏ができる（752） 京都の「長岡京」に都を移す（784）	『出雲国風土記』がつくられる（733） 松江市南部に国分寺・国庁がつくられる 島根大学周辺が「島根郡山口郷」とよばれる 島根大学近くの朝酌川が「水草河」とよばれる
平安	京都の「平安京」に都を移す（794） 藤原道長が摂政になる（1016） 宇治に鳳凰堂ができる（1053） 源氏が平氏をほろぼす（1185）	渤海の使者が出雲国島根郡にくる（861） 源義親が出雲で反乱をおこす（1107）
鎌倉	源頼朝が鎌倉幕府を開く（1192） 承久の乱がおこる（1221） 元寇（1274，1281） 鎌倉幕府がほろびる（1333）	島根大学周辺が「長田郷」とよばれ，長田氏が支配する 島根大学近くの朝酌川流域に市場が存在する
室町・安土桃山	足利尊氏が京都に室町幕府を開く（1338） 南朝と北朝の対立が続く 応仁の乱がおこる（1467） 銀閣ができる（1489） 鉄砲が伝わる（1543） 織田信長が室町幕府をほろぼす（1573） 豊臣秀吉が全国を統一する（1590）	島根大周辺の「長田郷」を多賀氏・多胡氏が支配する 応仁の乱で出雲・隠岐守護・京極持清が東軍細川氏に味方する（1647） 尼子経久が山陰・山陽11か国をおさめる（1521） 島根大学の北にある尼子氏方の白鹿城（しらがじょう）を毛利元就が攻め落とす（1563）

江戸	徳川家康が江戸幕府を開く（1603） 参勤交代の制度が定められる（1635） 島原・天草一揆（1637） 鎖国が完成する（1639） ペリーが浦賀に来る（1853） 薩摩藩と長州藩が連合する（1866）	堀尾吉晴が松江城の築城を始める（1607） 京極忠高が松江藩主になる（1634） 松平直政が松江藩主になる（1638） 島根大学周辺が「西川津村」「菅田村」とよばれる 松平不昧公ゆかりの茶室・菅田庵ができる（1792ごろ）
明治・大正	明治維新，江戸を東京とする（1868） 廃藩置県が行われる（1871） 徴兵令・地租改正（1873） 大日本帝国憲法が発布される（1889） 日清戦争（1894～95） 日露戦争（1904～05） 韓国を併合する（1910） 第一次世界大戦に加わる（1914～18）	小学教員伝習所（今の島根大学教育学部）ができる（1875） 松江県、浜田県などをへて、現在の島根県になる（1881） 松江が市になる（1889） 小泉八雲が松江にくる（1890） 松江電灯会社ができる（1895） 山陰線が京都～出雲今市に開通（1912） 旧制松江高等学校（今の島根大学）ができる（1920） カルシュ博士が旧制松江高等学校に赴任する（1925）
昭和・平成	満州事変（1931） 日中戦争が始まる（1937） 太平洋戦争（1941～45） 広島、長崎に原子爆弾がおとされる（1945） 連合国軍に降伏する（1945） 日本国憲法が公布される（1946） サンフランシスコ平和条約が結ばれる（1951） 大韓民国と国交を正常化する（1965） 沖縄が日本に復帰する（1972） 中華人民共和国と国交を正常化する（1972） 昭和天皇が亡くなる（1989） 阪神・淡路大震災がおこる（1995）	松江放送局が放送を始める（1932） 松江市が空襲にあう（1945） 国立島根大学ができる（1949） 松江が国際文化観光都市に指定される（1951） 洪水で大きな被害をうける（1972） くにびき国体がひらかれる（1982） 国立大学法人・島根大学ができる（2004）

参考文献

- 会下和宏編『島根大学埋蔵文化財調査研究報告第1～8冊』島根大学埋蔵文化財調査研究センター　1997～2005年
- 高安克己「汽水域をつくる地形とその生い立ち」『汽水域の科学』たたら書房　2001年
- 中原健次・松本敏雄ほか『松江美保関往還・松江杵築往還・巡見使道』島根県歴史の道調査報告書第10集　島根県教育委員会　1999年
- 松尾寿・田中義昭・渡辺貞幸・大日方克己・井上寛司・竹永三男『島根県の歴史（県史32）』山川出版　2005年
- 道重哲男・相良英輔編『出雲と石見銀山街道（街道の日本史38）』吉川弘文館　2005年
- 山本清ほか『川津郷土誌』松江市川津公民館　1982年

まなびや
学舎の履歴書

2007年 3月発行

島根大学ミュージアム

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060　TEL・FAX 0852-32-6496
ホームページ　http://museum.shimane-u.ac.jp/
E-mail　museum@riko.shimane-u.ac.jp